

第5回朝鮮人・中国人 強制連行・強制労働を考える 全国交流集會に参加して

飛田 雄一

ことしのあつ／＼い夏のだ真ん中の7月30日、31日、長野市で第5回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集會が開かれた。この交流集會は、90年8月に名古屋で第一回の交流集會が開かれている。同年5月のノ・テウ大統領の訪日をきっかけとして強制連行の「名簿さがし」が話題となっていた時期に、全国各地で調査活動が続けていた人々が一堂に会して情報を交換する会として開催された。以降、兵庫(91年)、広島(92年)、奈良(93年)と開かれ、今年は松代大本營で全国的に知られる長野市で開かれたのである(私は、長野市とは別に松代市があると思っていたが、それはまちがいだった。現在、松代(町)は長野市内の地名である)。

松代大本營は、太平洋戦争が敗色を強めて、本土決戦が予想されるという状況のもとで、一九四四年11月に始められた大規模な地下壕である。全長一万三千餘の長大なもので、政府機関、放送局から天皇の「御在所」までまで作られた。工事は秘密裏に進められたが、そこには多くの被強制連行朝鮮人が動員されたのである。(本号で鹿嶋節子が書評している『松代大本營の真実』(日垣隆)等参照)

毎年、むくげの会からも何名かが参加しているが、今年参加したのは、堀内稔、鹿嶋節子、金英達と飛田の4名である。それに時々『むくげ通信』に登場する原田智子、田村禎子、北原道子(およびその彼・倉持光雄&子・由木)も参加した。それぞれが思い思いに現地に出かけたが、鹿島、飛田と田村は前日から長野県白馬村の元学生センタ

ー職員・新井久子宅へ車で出かけた。新井夫妻は、脱サラして昨年から白馬村に住んでいる。朝10時ごろには出発したが、京都までの停滞がひどかった。中央自動車道は快適に飛ばしたが、到着したのは午後9時ごろであった。神戸時代に有機農業の消費者グループでも活動していた新井さんは、庭で野菜を作り尿処理にも工夫をこらし、木工大工をしたりスキー場の仕事をしたり……して暮らしている。その日は、大いに語り大いに飲み、寝た。

翌日、朝11時からの松代大本營フィールドワークに間に合わせるべく9時ごろに白馬村を出発して松代に向った。山越えの道で景色は良かったが、鹿嶋、田村は少々(?)車酔いをしたようだ。ほぼ時間どおりに松代に着くと、おなじみの顔もチラホラとあった。そのあいさつは、「あつ／＼い、あつ／＼い」。さて、グループごとに大本營のトンネルにということ、鹿嶋、田村は懐中電氣をかざして入坑。一方私は、交流集會参加の第一の目的(?)の学生センター書籍販売のために交流会会場の長野市内の勤労者福祉センターに先に出かけた。私は、トンネルに二度入ったことがあるので、今回は「商売優先」となったのだ。会場についてさっそく店をひろげ、この日にやっとならわせた『94朝鮮人・中国人強制連行・強制労働資料集』(金英達・飛田雄一編、センター出版部刊、千六百円)などを並べた。

午後から始まった全体集會は、実行委員会代表の竹内忍さんのあいさつの後、歴史研究者の青木孝寿さんの特別報告と作家の井手孫六さんの記念講演があった。青木さんは長野県下における教育研究活動の中心的な方で松代大本營を保存する会の代表もされている。松代大本營をめぐるこれまでの活動の整理とその現代的な意味などについて講演された。井手さんは、午前中に初めて松代大本營に入られた感想も含めて自身の体験にひきつけた、味わいのある講演をされた。

全体集會終了後、宿舎である善光寺の宿坊に移動した。この全国交流集會は規模が年々大きくなっているが、三百名ほどを一ヶ所に収容できる施設が松代町になかったため、長野市内で善光寺の宿坊を利用しておこなうことになったのである。ずらりと並んだ善光寺の宿坊は、

大変興味深いもので、下駄を履きうちわをもってブラブラすると気分がよかった。(翌朝、善光寺の地下の闇の世界を観覧した。値段は高いがおすすりめである。)いくつかの宿坊に分かれての夕食ののち、分科会が始まった。今年は次のように9つの分科会がもたれた。

①入門講座、②強制連行・強制労働をどう教えるか、③女性と戦争(「慰安婦」問題を中心として)、④強制連行・強制労働とマスコミ、⑤調査・研究の新たな展開、⑥史跡保存のあるべき姿、⑦戦争責任・戦後責任を検証する、⑧強制連行・強制労働と在日、⑨「戦後50年」からの出発。

私は、松代・朝鮮人「慰安婦」の家を残そう実行委員会の入江さやかさんとともに第④分科会の司会を担当した。今年の分科会は、報告の本数を減らして論議の時間を増やそうということになり、第④分科会でも二本の報告を中心に論議することになった。「韓国近い昔の旅ー植民地時代をたどる」(凱風社)を書かれた神谷丹路さんと新聞記者でもある司会の入江さんが報告した。神谷さんは、新聞・テレビの強制連行された朝鮮人を訪ねての韓国取材に通訳とし関わった体験とその後の日本国内の調査活動を続けている市民運動グループとの連携のこと等を、入江さんは自身の記者としての体験と「さめやすい」マスコミの体質の市民団体のそれに対する取り組み方(?)等について報告した。この分科会には、新聞・テレビの関係者、フリーライター、映

第5回
朝鮮人・中国人
強制連行・強制労働を考へる



全国交流集会

フィールドワーク①長野市松代町(地下鉄)
交流会②長野県労働資料館(セゾー)



1994.7.30~31
主催●第5回 朝鮮人・中国人
強制連行 強制労働を考へる
全国交流集会実行委員会

地下の闇に、跡に、慰安所が
「慰安所」の跡に、慰安所が
「慰安所」の跡に、慰安所が

画監督、調査保存活動をしている人等、バラエティー豊かな方々が参加した。分会は一日目の夜と二日目の午前の二回にわたって行われた。残念ながらテーマをしばらくこめず、議論百出ケンケンガクガクのにぎやかな分科会とはならなかったが、それなりに意義ある交流をすることができた。詳しくは、松代集会の実行委員会によって作成される報告集を読んでいただきたい。

夜には、恒例の交流会が開かれる。今回は、各宿坊毎に交流会が開かれたので残念ながら一堂に会しての大交流会はできなかった。私のように厚かましい者は、宿坊をハシゴしているような人に会うことができたが、遠方よりひとり初めて参加したというような人には、不十分な交流会であったかもしれない。他の泊り客から「我々はあす朝早くから善光寺にお参りするのだ。いかげんにしてくれ」と怒られ、別の宿坊に交流会会場を移してきたグループもあった。

最後の全体会では、分科会の報告、構成劇「あなた朝鮮の十字架よ」があった他、「『アジア交流センター』(仮称)設置構想の白紙撤回と被害者個人への『謝罪と補償』を求める声明」が採択された。また、昨年以来全国の主だったメンバーで話あいをしてきて、今年の交流会で正式に交流集会の「世話人会」ができたことの報告もあった。世話人は、①全国交流集会の運営について協議する、②交流集会を実りあるものにするために、地域での調査活動を進めている人々と積極的に連絡をとってネットワークを広げ各地での調査活動の成果が交流会に反映されるように努力することを目的としている。現在、全国の24都府県の30名である。ゆくゆくは、すべての都道府県にすくなくともひとりの世話人ができることを願っている。当面この世話人会の連絡は、私が担当することになっている(連絡先は神戸学生センター)。

さて来年は「戦後50年」の節目の年となり、交流集会も第6回を迎える。全体集会の最後に大阪のグループから次回開催地の立候補宣言があり、高槻地下倉庫(タチソ)の保存運動を進めているグループが中心になって開かれることが決定した。また大阪での再会を楽しみにしたい。